

## 4 グループ

### 【付箋】

#### 1. 課題

##### (1)対象者：メンバー構成

- がん種ごとに分けてしまうと、症例の少ないがん種の患者さんが参加しにくい。
- 定例会として週1回 13時-15時に開催しているが、今後どういうふうにしたらよいか、ニーズもこのままといわれる。
- がん種を限定してしまうと、医療的なところに話題が特化されてしまう。

##### (2)対象者：人数

- 参加者が毎回少ない。どのようにしたら参加につながられるか。
- サロン参加者をどのように増やすのか、いつも同じ人の参加になっている。
- 新規参加者が来られても、継続されない。入院ではくるが外来通院になると来ない。
- 参加者が固定されている。
- 継続して参加してもらえる人が少ない。人数が増えない。

##### (3)広報

- サロンがあることが院内にあまり周知されていない。
- 院内サロンの広報の仕方をどのようにしたらよいか。
- 地域への声かけが必要。どのような方法が効果的か。

##### (4)対象者+広報 工夫

- 院内の広報誌に1年間の予定を載せる。病院のHPに載せる。
- 直接病棟に出向き、対象者に案内する。
- 各病棟にポスターを貼っている。定例会には案内板を置いている。
- 参加者確保のために、ミニ講座の年間計画を発表
- 院内サロンで、疾患別(乳がん)、対象(小児 家族)を少しずつ実施している。
- 体験に共通点があったほうが話しやすいという観点から、がん種ごとにわけたサロンを開催。

##### (5)日程・時間

- (課題) 院内サロン 現在、月1回日曜日を固定しているが、そうになると他の曜日の外来患者が参加しにくい。
- (工夫) 火曜→水曜→火曜と隔月で開催曜日を変える。

## (6) 運営主体

- 相談員のマンパワー不足
- (課題) 運営の主体を相談支援センターから、患者・家族に移行できないか。
- 運営主体：患者中心のサロン運営にしたいが、適当な人材がない。
- キーパーソンになりそうな方を見いだす。
- リピーターの方 グループの中でファシリテーターの役割をしてくれる方が出てくる。

## (7) 経済 (費用)

- (課題) お茶を出したいが、経済的なバックアップはない。
- 県の補助金の活用。

## (8) 人材育成

- (課題) ピアサポートの仕組みがない。
- 地域の患者会・サポートグループとの協働。

## (9) 内容

### (課題)

- 話をする人が限られてしまう。
- フリートークにして、会の進行も参加者（患者さん）におまかせしているが、話題がつかせてしまう（メンバーが固定されていることもあるかも）。
- 講義される医師へ一人の方の質問が集中してしまうのをどのように防ぐか。

### (工夫)

- 会議室を使っている為、話しやすい雰囲気を出す。お花。
- 院内サロン テーマを決めて医療者のミニセッションを毎回実施している。
- 年3回小講義を開催（内容はアンケート結果を参考に設定）。
- 事前に聞きたいこと、知りたいことを聞き、グループ分けをし、聞けるようにする。
- 決まった人ばかりが発言しないように、話しやすい雰囲気作りに配慮している。

## 【まとめ】

### (課題)

#### 1. 対象者に関して

- がん種ごとにわけると参加者が限定される。
- 参加者が増えない、固定される。

## 2. 内容

- 一人の人が話をしてしまう。

## 3. マンパワー不足

## 4. 運営主体、人材育成

### (工夫)

- テーマを決めて、15分程度のミニセッション後、フリートークに。決まった人ばかりが話をするような工夫。
- ピアサポートの育成。

## 5 グループ

### 【付箋】

#### 1. サロンの運営。

##### (1)資金

- 運営費をどうするか。
- サロン運営の資金をどうするか。

##### (2)開催日

- 平日は参加しにくいという声がある。

##### (3)サロン運営

- がんサロンの雰囲気作り。

##### (4)トラブル対処

- サロンでのトラブル対処について。
- 遺族の方の参加希望があった場合の対応。

#### 2. サロンの場所

##### (1)院内

- 遠方に住んでいる方の参加が難しい。
- 参加しやすいサロン（場所）にするにはどうすればよいか？

##### (2)地域

- 場所が狭い（狭くなってきた） (1)と(2)両方に入る。
- 場所の確保。

#### 3. サロンの広報

##### (1)そもそもどうやってPR

- 広報の仕方はどうしていくのがよいのか。
- 広報の方法について。

##### (2)理解を得るには

- 院内で、がんサロンの役割をどのように知ってもらうか。

(3) 広報が行き届かない？

- 参加者が固定して新規参加者が少ない。
- 新規の参加者が少ない。

4. サロンのマンパワー

(1) スタッフ・協力者集め

- スタッフ集め。
- 院内（周り）に協力者を増やしていくにはどうしたらよいか。
- やりたい人ができる人ではない。

(2) 育成

- スタッフの育成。

(3) スタッフの構成

- スタッフメンバーの職種。

(4) 運営の移行

- 病院主体から患者・家族に運営を移していく時の注意点は？
- 参加者の中でのリーダーへの移行が難しい。

(5) 継続のために

- 医療者との距離の取り方。
- スタッフのモチベーション（人間関係）。
- 時間の経過とともに、協力者が減る。

【まとめ】

4つの問題にわかる

- サロンのマンパワー
- 広報
- サロンの場所確保
- サロンの運営

1. 場（地域・院外 $\leftrightarrow$ 院内 2つのグループがある）

(1) 地域

医療者もスタッフの一員としているが、専門的な知識を言いたがる→聞きたがる。

## (2) 院外

有志・ボランティアで成り立つ。

スタッフの育成が大変。

やる気あり、継続的に行うが、参加者はいても、スタッフが少ない。人選の必要性。

1年間プチボランティア→スタッフに選ぶ。

資質のみきわめが大切。

組織に守られているわけではないため、問題が起きたときに困る。

患者会：生活の場、社会の一員で、個人の責任。

サロン：仕事として。深い話をする。病院で専門的知識を持っている人が支援する

## (3) 院内

グループ（参加人数）が多いとき、病棟スタッフの協力を得ている

看護部：勤務内に参加してもらうのが難しい

ミニ講義：割り当てを決めている（年間計画をたてる）

患者さんの本音が聞ける

栄養相談：栄養士に依頼

## 2. ピアカンセラーの育成

- 知識を持って入りすぎない（サポートグループでは良い運営ではできない）。
- リピーターがいると、会を盛り上げてくれる。
- 患者側の意向が大切。
- ファシリテーター的な役割を医療者側。
- ピアサポートグループとサポートグループの見分けがわからない。
- 患者会（情報）とサロンの違い。

## 3. 資金

- 事務用品は院内予算（紙質悪い）。
- 費用面では、自宅にある（ポット）持参したりする。

## 6 グループ

### 【付箋】

#### 1. ピアサポーター育成

##### (課題)

- ピアサポーターも患者（家族）であるので、養生していく必要がある。
- ピアサポーターの育成が課題。

#### 2. 広報について

##### (課題)

- 新規参加者がなかなかこない。
- がん患者サロンの周知の方法。
- 医療従事者への広報。

##### (工夫)

- 参加者が少ない：病院内アナウンスをしてもらう。目につくところに案内を掲示してもらう。
- 院内スタッフへの啓蒙。
- 病棟看護師が当番制参加。

#### 3. 運営方法

##### (課題)

- サロンの形態：グループサロン、部位別サロンなど 患者家族のニーズにあう形態。
- 部位や進行度の違う方々が集まって話し合うことの難しさ。
- （再発おしゃべりサロン）現状 2 ヶ月に 1 回の開催を 1 ヶ月に 1 回にしてほしいという要望がある。
- AM10 時から 15 時の開催だが、13 時からのミニ講義に集中し、午前中の参加が減った。

##### (工夫)

- 患者と家族を分けたサロンの開催。

- 同じ病気の人と（部位、時期）話したいというニーズに応える。
- 同じ病状（再発部位）で元気になっている人がいれば、その場で紹介。気落ちしている人が元気になる。
- ファシリテーターを一人にしないで、参加しているピアサポーターが協力して話を聞き、全員で共有できるように進行している。
- 参加者のニーズの把握をしている。受付の際、医療者との面談、患者さんとの交流、講義参加の分類
- 医療的な不安については、相談支援センターから協力体制をいただく。

#### <患者会←→患者サロン 連携・ニーズにあわせて利用>

- 参加者全員が発言できるよう、タイムマネジメントをきちんとする。
- はじめに自己紹介、病歴・病状、（再発）、治療の内容を話す。→自分の治療を詳しくメモするようになる。
- 民間療法やあやふやな情報等、ナビゲーターとして考えを整理し、発言。参加者が混乱しないように運営に留意する。
- 季節によってイベントを取り入れ、楽しい雰囲気になるよう心がけている。七夕短冊、クリスマス、リレーフォーライフなど
- がん哲学外来とのコラボレーション。

#### 4. 個人情報の保護（運営方法＋個人情報の保護）

- 参加者の個人情報を守る：サロンでの発言、個人情報は他言しないように注意喚起する。
- 職員の配置や環境の決定が難しい（サロンという形が準備しにくい）

#### 5. 評価

##### （課題）

- 参加しての評価をどのようにするか

##### （工夫）

- 参加代表者との定期的な意見交換の設定
- 職員間の定期的なミーティングの開催



## 6. 定義

- 患者会との棲み分け、あり方、定義

### 【まとめ】

#### 1. ピアサポーターの育成

- サポーターも患者：養生が必要。
- サポーターの育成。

#### 2. 広報について

- 院内アナウンス。
- 案内掲示。
- スタッフの啓蒙。

#### 3. 運営方法+個人情報保護

- 患者と家族を分ける。
- 同じ部位・病状。
- ファシリテーターを一人にせず協力。
- ニーズの把握。
- センターとの協力体制。

#### 4. 評価

- 定期的なミーティング。
- 意見交換。

患者会←→患者サロン

連携、つないで、ニーズにあわせて

何を求めているか

一つのサロンで全てを解決は難しい。それぞれのサロンの特徴にあわせて利用する。運営者は誘導する。

- 同じ部位同士だと意見交換がスムーズ→同じ部位だとほっとする。前立腺がん：性生活など話せない部分も話せた。
- 別の部位でも、持って行き場のない思いをはき出す。
- 初めての方は、ファシリテーターが促す。
- サロンと患者会をうまく使い分けている方もいる。サロンだと医療者がいる（気持ちのつらさがだせる）→患者が何を求めているか？ 医療者は患者会に促す。
- 予後告知、本人にどうか、家族の希望（言いたくない）と本人の意思（最後まで闘いたい）。
- 運営で悩んでいるが、工夫も多くあることがわかる。

## 7グループ

### 【付箋】

#### 1. 運営方法

	運営方法	
	課題	工夫
マンパワー	運営方法（継続性）限られたスタッフで対応している	<ul style="list-style-type: none"> <li>●支援者の困りごとなどに対し、支援者（世話人）が集まり、互いに相談できる場を月1回もうけている。</li> <li>●病院スタッフにミニ講演などで実際に参加して知ってもらう。</li> </ul>
ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ニーズを踏まえたサロン運営</li> <li>●参加者のニーズに対応できているのか。</li> </ul>	アンケートをとってニーズを調査する。
主体移行	<ul style="list-style-type: none"> <li>●患者会を患者主導にしていくようにするにはどうしたらよいか。</li> <li>●院内がんサロンの運用をいずれは患者主体にと話はあるが、主体になりそうな患者会はない。</li> </ul>	自分たちで主体的に何をしたらよいか考えてもらい、徐々に主体を移行。

#### 2. 広報

##### （課題）

- サロンの院内周知。
- 院内がんサロンが活用されていない。
- 院内がんサロン活用のためのインフォメーション法は？ポスター、院内放送、ホームページなど。
- サロン広報 がんの罹患や告知の段階など、早い時期からサロンの存在を情報提供。
- サロンの活動内容を集約し、情報提供窓口を整理する。
- 開設時間、日数の拡大。
- 院内がんサロンが活用しやすい場所（配置）は？

(工夫)

- 広報誌、ポスター（院内）、ホームページ、スタッフの参加を促す
- 院内医師や看護師に直接説明会を設定する。

### 3. 人材育成

(課題)

- 参加者同士の交流を促進するスキル。
- 人材育成をどうするか（当事者、支援者）。
- サロンを継続するための人材育成や組織の協力。

(工夫)

- 県の事業で育成がある。
- 勉強会を開催する。

### 4. 参加状況

(課題)

- 参加できない、しない方の理由に対する対応策。
- サロンにこられる方が固定化してきていて、新しくこられる方がなかなか増えない。
- 資金不足。
- がん種によって、患者会に求めることが違っているように思う。そのへんのサポートが難しい。
- トラブルが起きてしまうことがある。
- 参加者同士のトラブル、対立の際の対応。
- 参加者内の凝集性が高まるには、どうすればよいか（2次会もできるような関係）。

(工夫)

- サロン運営に関するマニュアル作りやルールの徹底。
- 誰がきても、あたたかく迎えるように心がけ、環境を整える工夫。
- 主になるスタッフがフォローする。
- 参加したスタッフが対応を記録に残す。
- 開催時のルールをきちんと説明する。
- 説明しても話し合いの場になると、専門的な話になってしまうことも。

## 5. 方向性・評価

### (課題)

- サロンの今後の方向性。
- サロンの効果・奏功性を伝えていくための評価方法。

### (工夫)

- アンケートをとる。もう行きたくないという人の意見が把握しにくい。

## 【まとめ】

### 1. 運営方法

#### (課題)

- 継続性。
- スタッフの人数。
- 参加者のニーズに対応できているか。
- 患者会を患者主導にする手法。

#### (工夫)

- マンパワーの問題。
- トラブル時の対応。
  - ・支援者の情報交換の場で共有。
  - ・心理療法士が介入。
  - ・支援者の困り毎などに対し支援者（世話人）が集まり、互いに相談できる場を月1回設けている。
- 病院スタッフにミニ講演などで実際に参加して知ってもらう。
- アンケートでニーズ調査。
- 主体的に行動を誘導。

### 2. 広報

#### (課題)

- サロンの院内周知。
- サロンが活用されていない。
- 活用のためにインフォメーション方法（ポスター、院内放送、HP）。
- 情報提供窓口の整理。

(工夫)

- 広報誌。
- ポスター（院内）。
- HP。
- スタッフの参加を促す。

### 3. 人材育成

(課題)

- 参加者同士の交流を促進するスキル。
- 当事者による支援者の育成方法。
- 継続するための育成や組織の協力。

(工夫)

- 勉強会を開催する。
- 県で育成事業がある。

### 4. 参加状況

(課題)

- 参加者の固定化。
- 資金不足。
- がん種によって、患者会が求める事が違う。
- トラブル時の対応。

(工夫)

- 運営に関するマニュアル作りやルールの徹底。
- 環境を整える工夫。
- トラブル時の対応
  - ・主になるスタッフがフォローする。
  - ・参加したスタッフが対応を記録に残す。
  - ・開催時のルールをきちんと説明する。
  - ・患者同士の情報交換が患者のマイナス情報になる。

## 5. 方向性の評価

(課題)

- 今後の方向性。
- 効果・有効性を伝えるための評価方法。

(工夫)

- アンケートをとる。
- もう行きたくないという人の意見が把握できない。

## 6. 環境の整備

(工夫)

- 誰がきてもあたたかく迎えるよう心がける。

## 8 グループ

### 【付箋】

#### 1. ファシリテーター育成・世話人

- ファシリテーターなど人材の育成
- 人材の確保
- ファシリテーター（リーダー、世話人）のトレーニングの質の向上
- ファシリテーター（司会者）は参加者全員に一言でも話してもらうよう促す。

##### (1)世話人

- 主催側患者のメンタルサポート。

##### (2)ファシリテータースキル

- 一人の話す時間を上手に誘導する。
- 傾聴。

#### 2. サロンのあり方

- 患者会とどのようにつながるか。
- 病院主体からセルフグループへのサポート。
- 多様性の共有と共存（横のつながり、お互いを知ること）
- サバイバーの立場であっても、それぞれおかれている立場の違い。

#### 3. 運営するための工夫と課題

##### (1)開催・運営

- （工夫）定期的な開催 例）第○曜日 <生活の目標>
- （工夫）専用の場所確保
- （工夫）参加しやすい場所で開催
- 運営者以外のサポートメンバー
- トラブル時の対応

##### (2)企画

- タオル帽子の配布など闘病応援グッズ
- 雰囲気作り、スタッフの人数、場所、お茶など



- 小物（花や絵、置物）で和やかなムード作り。
- どのようなテーマで行うか。
- 交流以外の催し。
- 初発・再発、遺族、疾患別のサロンはどう広げるか。

### (3)資金

- 運営のための資金調達

### (4)広報

- 広報のやり方 院内外
- 参加者を確保するための広報の仕方
- （工夫）ポスター掲示や外部の広報誌への案内
- 広報のあり方
- サロンがあることを知ってもらうために市の広報などを活用する。公共の場でのアピールなど。

## 4. 情報

- （工夫）情報収集をしやすい環境整備（冊子やインターネット接続）
- （課題）玉石混交の情報の選定（インターネットなど）
- （課題）個人情報の保護（プライバシーの確保）

## 5. 評価

- 評価の方法

## 9 グループ

【付箋】

### 1. 課題

#### (1)運用費用

- 運営費用
- 運営費の問題
- 参加費
- 開催するイベントの経費
- 運営費

#### (2)広報

- 開催日の固定、参加者の固定
- 参加者・支援者
- 途中退室も可能と伝える

#### (3)患者団体との協力

- 院内小児科にてサロン運用・活動をしたい。
- 患者会や他部署との関わり方について。
- サロン参加者から病院への要望についての対応。
- ピアサポートの選定と質の確保。
- サロンの効果をみる（評価）していくことが課題。
- 病院内でサロンを作ってほしい。
- サロン運営にたずさわっているスタッフの工夫：MSW、看護師、医師、他
- 医療職以外の専門職からの協力。
- 運営者としてのファシリテーター能力を高める。

#### (4)その他

- 患者が亡くなった後の身内のサポート。

### 2. 工夫

#### (1)場所

- あまり広くない場所。
- 院内でも病院らしくない環境作り。
- 病院によいイメージを持っていない人がいるので（特に亡くした人）環境作り（入りやすさの工夫）。

- お花を飾る、テーブルクロス、ティッシュケース、BGM。
- 場所選び：なるべく目立たないところ、駐車場の広めのところ。
- 患者さんが参加しやすい環境（ハード面）の整備・工夫、テーブルの大きさ、いすの配置等。
- 支援会と交流会の場所をちがうところもよい。
- サロン参加者のがん種や病期の配慮。
- 環境・場所。
- 誰もが気軽に参加できる場所であること。
- サロンの場所、環境作り。

## 【まとめ】

意見が多かったのは

- 患者団体との協力
- 運営費用

## 1. 工夫

### (1)場所：環境作り（参加しやすい）

- 目立たない：プライバシーを守ってほしい（病気のことを知られたくない）
- こじんまりした空間：顔の見える距離（丸テーブル）
- 来所しやすい：わかりやすい場所
- 空間の工夫：雰囲気（病院のイメージから離れたたい）
- 費用がかからない：治療費で負担大
- 病院の看護師がいる：治療中の思いを共感したい
- 同じ状況にある人：患者と遺族、その家族、病気の受容時期、がん種など

### (2)運営

サロンにたずさわるスタッフ

- 病院で他の仕事を抱えながら仕事して担当する（患者の主体性がなくなる場合あり）
- ボランティアである場合：担当するスタッフだけではなく、他の専門職の協力必要（医療職、SW、ファシリテーター（能力）、ボランティアなど）

### (3)広報

- 世間体への配慮：途中退席可、参加不参加自由、他者にわからないように
- イメージをよくする：明るいイメージ（オレンジティーのちらしなど）
- 気軽に参加できる

(4)費用

- 運営費：お菓子、お茶代など（お茶代は経費で落ちるが、お菓子は落ちないことが多い）

(5)患者団体の協力

- 人間関係：患者同士で合わない、意見が食い違い←医療者などが協力  
ただし、医療者が入ることで、医療者への不満が言いにくい面もでる。

(6)悩みで個別的なもの

- 他につなげる工夫：セカンドオピニオン、医療費。